

3の3 社会科学習指導案

第1日2限 3の3
授業者 森田 誠

1 単元名 金沢（大桑地区）のりんごづくり

- 2 目標
- ・金沢のりんご農家の栽培や販売の工夫や努力を、自然条件や消費者の願いと関連づけて考えることができる。
 - ・金沢と他地域のりんごを比較することから問題を発見し、その栽培方法のちがいを予想し調べまとめることができる。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

日本における本格的りんご栽培は明治政府の奨励によって始まり、冷害に強く米よりも収入がよいという理由で青森や長野などで広まっていった。栽培される品種も、冷涼な気候で良質なものが栽培できるよう改良されており、消費者からもそのりんごは高い評価を受けている。

一方、石川県におけるりんご栽培は、その栽培の南限でもあり、生産量は全国10位前後と決して多くはなく、知名度も高くはない。この石川県（金沢）のりんご栽培には、青森などより温暖な気候のため、糖度が高くなる、出荷時期を早められるという利点もあるが、現在の品種が冷涼な気候に適したものとなっているため、よい品質のものを栽培するには難しい面もある。そんな中でより品質のよいものを栽培するために、日当たりを重視し、きめ細やかな剪定や玉回しなどで糖度を上げるという努力をしているのである。さらに15品種もの栽培により販売期間を長くしたり、完熟した時期に収穫したりし、直売や宅配便でできるだけ早く消費者の手に届けるという流通面での工夫も取り入れられているのである。

このように、金沢のりんご栽培や販売の工夫や努力は、決してりんごづくりには恵まれてはいない自然条件の克服と、完熟した糖度の高いりんごを食べたいという消費者の願いという視点から考えることができ、それは子どもの問題追求への意欲を十分に満たす学習材なのである。そこで本単元の基礎・基本を以下のように設定した。

- ・金沢のりんご栽培と販売の工夫や努力を、自然条件や消費者の願いという視点から考えることができること
- ・金沢と他地域のりんごを比較することから問題を発見し、生産や販売の仕方のちがいを調べまとめることができること

学びを広げ深めるために

① 社会的事象との主体的なかかわりを生み出す場の設定

本校の近辺にはりんごを栽培する果樹園が見られる。子どもたちも、遠足などで出かけた折に

単元計画（総時数 10時間+課外）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 ふだん食べているりんごと金沢のりんごをくらべ 金沢のりんごづくりについて関心をもつ ・外観と味覚で比較する 見た目はあまりよくないけれど とても甘いな 金沢と長野などでは 何かちがいがあがあるのかな	①
見た目はよくないけど 糖度が高いのはなぜだろう	
2 長野などのりんごづくりについて調べる ・りんごに関する書籍や長野市の副読本などで調べる 剪定 施肥 消毒 袋かけ 多くの仕事があるな	②
3 調べたことをもとに 金沢のりんごづくりの工夫や努力を予想し 果樹園見学の計画を立てる 見た目より糖度を考えた工夫や努力は何か	③
4 果樹園を見学し 予想を確かめる 日当たりを良くして糖度を上げているんだ 有機肥料も使っているよ 完熟した時期に収穫して直売するんだ 15もの品種をつくっているんだ	③ ④
5 見学でわかったことを確かめ 金沢のりんごづくりや販売の工夫や努力をまとめる	

りんごの木を見かけたことはあるだろう。しかし、決して知名度の高くない金沢のりんごやその栽培について関心は低いであろう。そこで子どもが金沢のりんごと主体的にかかわることができるように、金沢のりんごと店頭でよく見かけるりんごを比較する場を設けたい。日当たりを重視し、無袋で栽培された金沢のりんごは、決して見た目はよくないが高い糖度を誇っている。子どもたちが見て、食べ比べることで生まれた問題意識「見た目はよくないけど、糖度が高いのはなぜだろう」は、主体的な追求活動へと発展するであろう。

→問題意識を主体的な追求へと発展させる姿

② 個々の学習の仕方を大切にする個性化の保障

「見た目はよくないけど、糖度が高いのはなぜだろう」という問題意識をもち追求する場面において、個々の子どもが着目する対象は様々であろう。日当たりを重視した作業に着目する子、肥料や薬剤に着目する子、袋かけに着目する子などである。そこで、子どもが自分の意識を大切にしながら追求していけるよう、参考になる書籍や生産組合、ホームページなどを紹介し、支援していきたい。

→個々の問題意識を大切にしながら追求する姿

③ 子ども相互のかかわりを大切にするグループ編成

追求する過程において同じ対象に着目した子ども同士でグループを編成させ、協力して追求活動や見学を行わせたい。

→協力して追求・見学する姿

④ 地域社会とのかかわりを大切にする学習展開

地域のりんご栽培農家に協力を要請し、子どもが果樹園や直売所に話を聞きに出かけたり、見学したりできるようにしておきたい。

→地域の人々と積極的にかかわる姿

4 本時の学習 (5 / 10時)

ねらい 金沢のりんごづくりの工夫や努力をその特徴と結びつけ予想し、果樹園見学の計画を立てることができる。

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教師の働きかけ
<p>1 りんごづくりの仕事を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剪定 葉摘み 玉回し (日光を実や葉によく当てる) ・農薬散布 ・施肥 ・袋かけ (日焼け・虫くい防止) など 	<p>各作業を農事暦に位置付けながら それぞれの役割を明確にしてい</p> <p>く</p>
<p>2 金沢のりんごの特徴を想起し りんごづくりの工夫や努力を予想する</p> <div data-bbox="201 1525 1037 1621" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>見た目はよくないけど 糖度の高いりんごを どのようにつくっているのだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・日光をよく当てるようにしているのかな ・糖度が高くなる農薬があるのかもしれないぞ ・肥料をたくさんあげると甘くなるのかな 	
<p>3 予想について話し合い 果樹園見学の計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬散布や袋かけは きれいなりんごをつくるためだな ・剪定や葉摘みに工夫があるのかな ・糖度が上がる肥料があるのかもしれないね ・その他にも何かあるのかな ・果樹園見学で 聞きたいこと 確かめたいことがはっきりしたよ 	<p>見学の視点を明確にするため 聞きたいこと 確かめたいことを農事暦に位置付ける</p>

5 の 1 社会科学習指導案 第1日1限 5の1

授業者 松下 浩一

- 1 単元名 これからの工業と環境 -ゼロエミッションをめざして-
- 2 目 標
- ・これからの工業生産について、生産方法や製品ならびに職場環境にいたるまで、環境・資源などの面から考えることができる。
 - ・工業製品を購入し利用する私たちも、環境・資源に対してできることを探し行動しようとする思いを持つ。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

工業生産の発展にともない、わたしたちのくらしは豊かで便利なものとなってきた。消費者はますます便利・快適を追い求め、製品のニーズも多種多様化の一途をたどっている。それに呼応するように、製造業者もさらなる技術革新を積み重ね、その進歩は目覚ましいものがある。しかし、工業生産が発展するにつれて、問題となるのが環境問題である。昭和30年代～40年代に生じた公害と違って、現在は地球規模の環境問題となっている。「環境」を視野にいった工業生産がおこなわれていないと、その企業は国際的にも認知されない状況となってきている。そこで、今、日本各企業が努力しているのが、「ISO9001」及び

「ISO14001」などの取得であり、廃棄物ゼロをめざした「ゼロエミッション」である。「ISO」には、品質システムの規格の「ISO9001」、環境マネジメントの規格の「ISO14001」がある。日本ではこの2つの取得企業数は今や世界トップレベルである。また、「ゼロエミ

単元計画 (総時数 8時間+課外)

ッション」は、ある企業の出す廃棄物が別の企業の資源となることをさす。つまり、企業から出た廃棄物が他の企業の原材料になるような循環型システムのことをいう。

このようなISOの資格を取得し、廃棄物ゼロをめざした企業の取り組みを追求することによって、これからの工業生産のあり方を考える上で、環境保全や資源の有効利用という視点で考えることができるであろう。また、ゼロエミッションを考えた職場環境の改善を追求することで、自分の暮らしのあり方をも見直すよききっかけづくりにもなると考えられる。

そこで、本単元での基礎・基本を次のようにとらえることにした。

- ・ゼロエミッションをめざした企業の姿から問題意識を持ち、企業の努力や工夫を環境や資源という視点から考えることができる。
- ・企業の環境を考えた取り組みの様子を調べる中で、自分たちの生活でもできそうなことやもっと工夫して取り組めるようなことなど、身のまわりのくらしをもう一度見つめ直しながら、環境保全に対する自分なりの考えを持つことである。

主 な 活 動 と 内 容	学びを広げ深めるために
1、工業製品購入後に出るごみについて考える <購入後に出るごみには何があるだろうか> 発砲スチロール 段ボール ナイロン袋 ・出るごみの問題点について話し合う	①
2、電化製品製造業の取り組みについて知る ・発砲スチロールの回収システムのビデオを見る ・みかんの皮の成分で発砲スチロールを溶かす実験をする ・その企業の環境に対する他の取り組みを知る	①
3、地元の企業の取り組みを調べ発表する	②③④
わたしたちのまわりの企業は環境に対してどのような取り組みをしているのだろうか？	
・各地元企業の取り組みを調べワークショップ形式で発表し合う	
ビール工場 ・段ボールやビールケースのリサイクル ・ビールの副産物100%再資源化	コンピュータ会社 ・発砲スチロールのインゴット化 ・廃棄物90%以上再資源化
ユニフォーム会社など ・梱包材のリサイクル化 ・ユニホームの再資源化・固形燃料化	
ISO14001を取得し、廃棄ゼロを目指している 常にin put&out putするものを点検している ・企業の方をゲストとして招き、これからの企業の取り組みについて話を伺う	
4、自分たちの生活を見つめ直し、今後のくらしのあり方を考える ・家庭内でin put、out putするものを見直し、自分たちの これからのくらし方を考え、ホームページにまとめる	④

この学習を通して、企業の環境保全に対する努力や工夫に共感していくとともに、自分の生活を見直すきっかけとしていきたい。

学びを広げ深めるために

① 主体的なかかわりを生む学習材との出会いや追求する対象を選択できる学習を構想する

環境にやさしい企業の取り組みを主体的に追求させていくために、まず企業から出る梱包材のゴミの量の多さに着目させ、それをうまく再利用する電化製品製造業の努力・工夫する姿にふれさせることにより、他の企業の環境に対する工夫や努力に目を向けさせたい。また、県内の企業では、いち早くISOを取得した企業をいくつか提示し、それぞれの企業の中から自分なりに調べたい企業を選択できるようにし、各企業の環境を考慮した取り組みについてゆとりを持って調べられる学習を構想していきたい。

→意欲的に調べ考えようとする姿

② 自分なりの追求方法やまとめ方を大切にした学習活動を工夫する

自分の選んだ企業を調べる際に、実際に企業へ取材に行ったり、インターネットや図書資料などで調べたりなど子どもの追求しやすい方法を選び、学習をすすめていくように促していく。また、企業で働く人たちに直接質問したいことがあれば、カードにまとめたり、FAXしたりして、自分の問題を解決していくようにする。調べたことの情報交換の場では、各自調べた企業の取り組みの特徴をコンパクトな形で伝えられるように支援していきたい。

→自分なりの課題を持ち追求する姿

③ 子ども相互や教師とのかかわりを大切にす

調べたい企業別で分かれたグループごとで、役割分担しながら協力して追求したり、まとめたり、発表する場を設ける。グループの中で資料を持ち寄ったり、調べ方や発表方法のアイデアを出し合うであろう。また、各グループごとの発表を聞き合う中で、個々の思いを引き出すとともに、環境や資源といった視点を明確化するように支援していきたい。

→友だちと協力しながら追求する姿

④ 地域社会とのかかわりを考える場を設定する

学習のまとめの段階では、身近なゴミ問題や自分たちの生活を振り返る場を設けることにより、環境を守るために自分たちにもできることを考えさせていきたい。

→自分のくらしを見つめ直す姿

4 本時 (6 / 8 時)

ねらい これからの工業生産について企業の方からの話を聞くことを通して、環境や資源を大切にす
る生産活動のあり方について自分なりの考えを深めることができる。

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教 師 の 働 き かけ
<p>1 前回の発表から分かったことや気づきを発表する <ISO取得した企業の取り組みからどんなことを思ったか> ・ゴミや廃棄物の分別が徹底していてすごいな ・廃棄物はほとんど再利用や再資源化してむだがない ・周りの環境にも迷惑かけないようにさまざまな配慮をしている ・毎年環境監査を受けていて、大変だな ・環境への取り組みはずっと続けられるのかな？</p>	<p>子どもの発言を製品、生産 工程、社内環境などに分け ながら、板書に位置付ける</p>
<p>2 地元企業の方の話を聞き 自分の考えを深める ・製造過程や廃棄物を出さないことだけが大切ではない ・環境に負荷を与えないシステムを常に生み出し続ける努力が必要 ・製造過程だけでなく職場環境のすみずみまで考えることも大切 ・社員一人一人の意識を変えていくことが環境への取り組みを続け る上で一番重要なことである</p>	<p>ゲストティーチャーを招き 企業の取り組みの変化の理 由やこれからの工業生産の あり方について聞き取らせる</p>
<p>3 これからの工業生産のあり方について考える</p> <p>これから工業生産はどうあればよいのだろうか</p> <p>・製品、生産工程そして職場環境にも目を配ることが重要である ・そこで働く人々一人一人が地球環境のことに心がけ行動しようとする ことが大切だ</p>	<p>友だちの考えや企業の方の話 を生かして自分の考えをまと めさせる</p>

1 単元名 新しい日本の出発

- 2 目標
- ・民主国家としての日本の再建を、敗戦後の人々のくらしや政治の仕組み、国際的地位の変化という面から考えることができる。
 - ・東京オリンピックの意義や開催されるまでの国内の様子を調べることで、戦後の日本の復興を追求し、これからの日本の在り方について自分なりの考えを持つことができる。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

戦後の日本は、連合軍の占領下で民主主義・平和主義の国家を目指し、新しく歩み始めた。国は日本国憲法や普通選挙法を制定し、国民の意識の改革を図った。国民もまた新しい日本を築くため、敗戦の苦しい生活の中で、より豊かな生活を求め復興に努めた。このような努力の結果、1951年サンフランシスコ講和会議で主権を回復し、1956年には国際連合の加盟で国際的地位は復活した。このように国際社会の仲間入りを果たした日本は、1964年オリンピックを東京で開催した。

この開催は、国民全てが、戦後の復興を意識し、これからの日本を見つめる機会となった。交通網の整備や受け入れ施設の建設などが進められるとともに、スポーツを通して国際理解を深め、平和の尊さを再確認することにもつながった。加えて、国民の中に文化としてのスポーツを浸透させることにもなった。

この東京オリンピックが開催されるまでを追求していくことは、これまでの歴史事象を見る視点として考えてきた政治のしくみ・生産活動・人々の生活と文化・外国との関係を網羅している。そのため、子どもにとって幅広い問題意識を持つことができ、歴史学習の最後の単元として、これまでの学習を生かした自分なりの問題解決をするのに適した学習材だといえよう。

そこで、本単元の基礎・基本を次のように考えた。

- ・戦後の日本の国内や国際社会での復興に努力した姿を、政治や国民の生活、文化や国際関係という視点から考えることができること
- ・オリンピック開催の事象から問題を見つけ、その意義やその実現までの過程を調べまとめていく中で、これからの日本の在り方に対して、自分なりの考えを持つことができること

単元計画（総時数 6時間）

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 オリピックの一枚の写真について話し合う ・戦後の日本の変化を考える 	①
2 オリピックの歴史や開催の様子 競技成績などを調べ 戦後の急激な日本の変容に気づく ・東京オリピックの話を聴く 開催されるまでの人々の気持ち 開催した時の人々の様子 参加した時の思い	①②④
戦後20年足らずで どのようにしてオリピックが開催できる国になったのだろうか	
3 オリピック開催までの日本の動きや国民生活の様子を調べ 日本の復興の様子を考える 	②③④
4 戦後数十年の日本の復興と新しくかかえた問題に気づき これからの日本について自分の考えをまとめる 国際平和 外国との友好な関係 自然保護 産業の発達 生活の向上・安定	③

学びを広げ深めるために

① 主体的なかかわりが生まれる学習材との出会いの工夫

ローマオリンピックにおいて、日本人水泳選手がアメリカ選手が肩を組む一枚の写真を提示し、戦後のオリンピック、とりわけ東京オリンピックについて調べることを通して、子どもは戦後の日本の政治の仕組み、外国との関係、産業や国民の様子などの変化に意識を向け、それらを主体的に追求することになるだろう。 →一つの事象から問題意識を持つ姿

② 個々の問題意識を大切にしている個性化の保障

前述したように本単元は、政治の仕組み、生産活動、人々の生活と文化、外国との関係という視点から考えることができ、子どもにとって幅広い問題意識を持つことができる学習材である。そこで、個々の問題意識を大切に、視点を明確にさせながら追求する内容の個性化を保障していきたい。その際、記録VTR・写真・新聞記事等を紹介するなど、個の追求を利用や支援していきたい。 →自分なりの視点を持って追求する姿

③ 子ども相互や教師とのかかわりを大切にする場の設定

調べ活動を通して持った個々のオリンピックに対する思いや戦後の日本の変化に対する思いを大切に、それを交流する中でこれからの日本の在り方に対する一人一人の思いを膨らませていきたい。 →友達の考えを聞き考えを深めようとする姿

④ 地域社会とのかかわりを大切に学習活動を展開する

地域に住むオリンピック体験者をゲストティチャーに招き話を聞いたり、家族や身近な人にオリンピックの思い出や戦後の日本の様子を聞いたりすることで、当時の地域の人々の思いや苦勞、努力に触れさせていきたい。 →人々の思いに迫ろうとする姿

4 本時の学習 (3/6時)

ねらい オリンピックの話聞き、当時の日本の活気ある姿や人々の期待感に気づき、戦後の日本の復興について予想することができる。

本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
<p>1 オリンピックについて調べたことを話し合う 4年毎27回開催 平和の象徴 18回東京オリンピック 12回大会戦争で中止 94か国 金メダル数16 3位</p>	<p>当時の人々の気持ちに迫ることができるように オリンピックについて調べた感想を大切にする</p>
<p>人々はオリンピック開催をどのように思っていただろうか</p>	
<p>2 当時の人々の気持ちや国内の様子について考える</p>	
<p>・選手として参加した時の話を聞く</p>	
<p>テレビにくぎづけ 日本選手に期待 東洋の魔女に喜び</p>	<p>素晴らしい競技場 地下鉄や高速道路 ホテルの建設</p>
<p>厳しかった練習 人々の応援 外国選手との交流</p>	
<p>日本中が燃えた1.5日間</p>	
<p>・オリンピック開催の意義について話し合う</p>	<p>ゲストティチャーに 当時の人々の様子 国内の様子や選手として体験の観点で話していただく</p>
<p>3 オリンピックを開催できた理由を予想する</p>	
<p>・敗戦の当時の様子と比較する 外国に認められたから開催できたんだ 産業が盛んになり 人々の生活も豊かになったのだ スポーツなど 楽しみを持てるようになったのだ</p>	<p>予想を政治 産業 生活と文化 外交の 観点で位置付ける</p>